

概観

【内政】

- ・11日、解散総選挙の実施
- ・「There is Such a People (TISP)」による単独組閣案の提案
- ・第46回国民議会の開会：イヴァ・ミテヴァTISP議員の国民議会議長再選

【外政】

- 5日、ヤネフ首相のベルリン・プロセス首脳会合の出席
- 20日、欧州委員会による法の支配報告書の発表

【経済】

- ・8-9日、三海域イニシアティブ・ビジネスフォーラムの開催
- ・9日、三海域イニシアティブ首脳会合の開催

ブルガリアのマクロ経済指標は、ブルガリア国立銀行 (<https://www.bnb.bg/Statistics/StMacroeconomicIndicators/index.htm?toLang=EN>) よりご覧になれます。

この月報はブルガリア各種メディアの報道等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

内政

◆解散総選挙の実施

▶11日、第46回国民議会招集のための解散総選挙が行われた。14日、中央選挙委員会は最終結果を発表したところ、結果概要以下のとおり(4%以下は足り)。

▶投票率: 42.19% (277万5,410人 / 有権者657万8,716人)

▶各党得票率及び獲得議席数

・「There is Such a People」: 24.08% (65議席) (前回: 51議席)

・GERB・UDF : 23.51% (63議席) (前回: 75議席)

・ブルガリアのためのBSP : 13.39% (36議席) (前回: 43議席)

・民主的ブルガリア(DB) : 12.64% (34議席) (前回: 27議席)

・権利と自由のための運動(MRF) : 10.71% (29議席) (前回: 30議席)

・「Stand Up! Mafia Out!」 : 5.01% (13議席) (前回: 14議席)

(足りライン)

- ・ブルガリアの愛国者 : 3.14%
- ・再生 : 3.01%
- ・ブルガリアの夏 : 1.82%

◆TISPによる単独組閣案の提案

▶12日、スラヴィ・トリフォノフ「There is Such a People (TISP)」党首は、TISPは単独組閣案を提案する旨発表した。

▶同党首は、「我々は、既存政党、つまりGERB、社会党(BSP)、MRFと連立協議はしないと約束した。今我々は過半数の議席を有してもいない。しかし、我々は政治責任をとり、組閣案を提案することを決めた。TISP単独の組閣案を提案する。少数内閣でもない、多数内閣でもない、国民のための内閣である。我々が提案する内閣は、権威ある教育機関で教育を受け、複数の外国語を話すその分野の専門家で構成されている。なお、同内閣案を策定する前、我々は、暫定政権の優秀な閣僚3名、具体的にはペトコフ経済大臣、ヴァシレフ財務大臣、及びデンコフ教育科学大臣に閣僚ポストを提案したが、彼ら

はこれを断った経緯がある」と述べた。

▶同党首により発表された組閣案の主要閣僚は以下のとおり。

(1)首相:ニコライ・ヴァシレフ

2001—2003年副首相兼経済大臣、2003—2005副首相兼運輸大臣を歴任。(2)副首相兼外相:ラディ・ナイデノフ

キャリア外交官。2017年暫定政権外相。(3)副首相兼内相:ニコライ・ラドゥコフ

新ブルガリア大学教授(国家安全保障専門)。

(4)その他、初の女性国防大臣、ロマ人問題担当大臣への27歳ロマ人女性の起用を初めとする多くの女性・若手の起用等の特徴を持つ顔ぶれが提案された。

▶優先事項:①幼稚園の増園(全ての児童の入園を確保)、②新規の小児科専門病院の建設、③救急ヘリコプターの購入、④高速道路建設の完了、⑤学校における100万台のラップトップ並びにタブレットの導入、⑥ブルガリア開発銀行の民営化、⑦公共入札手続きの透明化、⑧国家行政の人員削減と公共サービスデジタル化、⑨多数代表制及び電子投票の導入並びに政党助成金の減額(1レヴァ／1票)、⑩特別検察並びに特別裁判所の閉鎖、⑪ギリシャとのガス・インターコネクション建設の完了、⑫ユーロ圏及びシェンゲン領域参加プロセス加速、及び⑬欧州宇宙協会加盟。

▶一方、15日、同党首は、TISPが組閣案を修正し、新たな首相候補を近く擁立すると発表した。TISPによる単独組閣案については、その既存の手続き・制度を無視したやり方や組閣案の内容に対し、DBを含む主要政治勢力から批判的な反応が寄せられていた。特にヴァシレフ首相候補については、かつてのシメオン政権時の閣僚であり、当時からMRFとの繋がりが噂されていたこと等もあり、DBを中心とする政治勢力からのネガティブな反応の原因となっていた。

◆ボリスフ前首相に対する警察による事情聴取

▶15日、ボリスフ前首相は、GERB支持者が同

前首相への支持を表明するため国家警察前でデモを実施する中、国家警察からの要請に応じ、事情聴取のため弁護士と共に警察本部に入った。

▶後刻、ボリスフ前首相は、2009年から2012年の3件の事案に関する事情聴取であったことを明らかにしつつ、前首相の関与に関する証拠は何も存在しないと述べた。

▶15日のボリスフ前首相への事情聴取は、2009年に第一次ボリスフ内閣のナイデノフ農業大臣が、シメオノフ国家農業基金代表から20万レヴァ(約10万ユーロ)の賄賂を受け取ったとして起訴された事件に関するものであったと見られる。

◆国民議会選挙後の動き:「Stand Up! Mafia Out!」の会派名の変更

▶20日、ブルガリア国民議会の議会会派の一つである「Stnad Up! Mafia Out!(SUMO)」は、「Stand Up Bulgaria! Here We Come!」と命名されることになると発表した。同政党は、240議を有する国民議会において、議員13名を擁する最小議会会派である。

▶マノロヴァSUMO院内総務によれば、「Here We Come!」を名乗る市民運動を始めたハジゲノフ議員及びバビキアン議員の提案により、名称が変更された由。

◆第46回国民議会の開会

▶21日、第46回国民議会が開会した。

▶第46回国民議会議長に関し、TISP及びBSPから2名の候補者推薦が行われ、投票の結果、前国民議会議長のイヴァ・ミテヴァTISP議員が再選された。

外交

◆ヤネフ首相のベルリン・プロセス首脳会合の出席

▶5日、ビデオ会談形式により開催されたベルリン・プロセス首脳会合での演説において、ヤネ

フ首相は、「EU加盟が引き続き西バルカンの変革の主要な推進力であると信じている」と述べた。

▶同首相は、「当該イニシアティブの成果を更に発展させる旨の議長国ドイツにより宣言された意思を歓迎する。これにより、西バルカンの欧州の視点を強化するための課題及び機会に対処するための努力の継続が保証される。真に西バルカン諸国を欧州の家族の一員にすることは、信頼と理解を深め、善隣友好関係を強化し、地域の経済的・社会的結束を改善させる政策に基づいた地域協力を通じて達成される」と述べた。

◆欧州委員会による法の支配報告書の発表

▶20日、欧州委員会は、公表した第2回目の法の支配に関する年次報告書において、ブルガリアに関し、「2020年の法の支配報告所を受け、ブルガリア当局は、検討中の4つの柱全てをカバーする行動計画を採択した。ブルガリアの司法改革は、司法の独立及び国民の信頼に重要な影響を与える漸進的なプロセスであるが、検事総長の説明責任並びに刑事責任に関する課

題及び最高司法評議会の構成・機能に関連する懸念等が残っている」と説明した。

▶同報告書において、欧州委員会は、司法のデジタル化や行政司法制度の効率化、ロビー活動並びに内部告発の保護に関する措置の有効性、高官レベルの汚職事件に対する実績の確立、メディアの多元性等に係る懸念を表した。

◆ラデフ大統領のオーストリア訪問：ファン・デア・ベレン大統領との会談

▶26日、オーストリア訪問中のラデフ大統領は、ファン・デア・ベレン大統領と会談を行った。

▶ラデフ大統領は、オーストリアがブルガリアの主要な貿易相手且つ投資国であると指摘しつつ、ブルガリアがオーストリア企業に対して新規・既存投資の拡大を推奨していると述べた。

▶今次会談では、新型コロナ禍からの経済回復を目指すEUの能力・危機対応のためのEUのメカニズム、及びデジタル・グリーン経済への移行を強化することが議題となった。

経済

1. 経済政策、産業

◆エネルギー省によるブルガルトランスガス経営陣の解任要請

▶5日、ジフコフ・エネルギー大臣は、エネルギー・水規制委員会(EWRC)が実施した天然ガス輸送事業者の非効率的な経営に係る調査結果を踏まえ、ブルガリア・エネルギー・ホールディング(BEH)に対し、ブルガルトランスガスの経営陣を解任するよう要請した。

▶2日、EWRCは、ブルガルトランスガスがバルカン・ストリーム の敷設及び資金調達に係る契約の仮承認を取得出来なかった旨の報告書を発表した。4月4日の国民議会選挙の翌日に要求されたEWRCの調査によれば、ブルガルトランスガスは、サウジアラビアのコンソーシアム

「アルカド(Arkad)」及びブルガリア並びにドイツの「フェロスタール・バルカンガス(Ferrostaal Balkangaz)」との間で結ばれたパイプライン敷設に係る契約、及び両者への支払いに使用された銀行融資に関する契約の承認を規制当局に申請してなかった由。EWRCは、「これら全ては、エネルギー部門の活動の認可に関する法律に反している」と指摘した。

▶アルカド社(パイプラインの線形部分:22億レヴァ(税引前))及びフェロスタール・バルカンガス社(圧縮機ステーションニカ所:3億6000万レヴァ(税引前))との契約が2019年秋に署名された。ブルガルトランスガスは、自社資金を用いるはずだったものの、両企業にアルカドとフェロスタールに前払いするために2億ユーロ(3億9100万レヴァ)を借り入れた。その後、ブルガ

ルトランスガスは、2020年に4億8700万ユーロ（9億5250万レヴァ）、2021年春に1億5650万5ユーロ（3億6009万レヴァ）の融資を受けている。

▶短期融資手続きは、資金調達の全三段階において実施され、ブルガルトランスガスは、毎回同様のスキームを使用した。同企業は、融資返済の担保として、各銀行に米ドル建ての定期預金を実施しており、預金の金利は融資利子よりも高く設定されていた。当該運営により、ブルガルトランスガスは、アルカド社及びフェロスタール・バルカンガス社との契約に基づき前払いを行うことで利息を節約できる旨主張した。エネルギー省によれば、ブルガルトランスガスが締結した融資契約により、同社の負債は、2019年初頭の400万レヴァから現時点で26億レヴァ以上に増加しており、同契約はEWRCにより承認されるべきだったが、同社は当該規制当局に通知していなかった。

▶EWRCの結論は、5月の暫定政権の任期開始直後にエネルギー省により提供された証拠を裏付けた。当時の国営エネルギー会社の財務状況を検討したところ、ブルガルトランスガスの大規模な投資プログラムにより、同社の負債が劇的に増加したことが判明し、このような対応は、同社への資金流入が増加した場合にのみ正当化されるものであり、また、バルカン・ストリームの財務概要では裏付けられてない見通しである。従って、最新のEWRCの調査では、バルカン・ストリーム計画がブルガルトランスガスの全体的な財務状況に悪影響を及ぼし、同社が多大な負債に陥っていることが確認されている。エネルギー省は、当該状況が、国営天然ガス輸送事業者の経営が効果的ではない旨のエネルギー省の結論を支持していると発表した。

▶6日、BEHは、ブルガルトランスガスの経営陣を解任せよとのエネルギー大臣の要請を求める書簡を期待している旨発表し、BEHの取締役会で当該決定について検討される予定である。同企業は、当該決定を一般に公表する予定で

ある。なお、同企業のプレスリリースによれば、ブルガルトランスガスは、垂直統合及び2層構造の経営体制を採っており、エネルギー法で定義された独立系ガス事業者である。

2. 三海域イニシアティブ(3SI)

◆3SIビジネスフォーラムの首脳級パネルにおけるラデフ大統領及びバイデン米大統領の発言

▶8－9日、ソフィアにおいて3SIビジネスフォーラムが開催された。

・初日、首脳級パネルにおいて、中東欧の同イニシアティブの加盟国、米、独、ギリシャ、欧州委員会及び国際通貨基（IMF）の代表者らが演説を行った。

▶ラデフ大統領は、「3SIは、対立を回避しつつ、より高い連結性並びに結束性及び経済繁栄の達成のため、対話のためのプラットフォーム及びエネルギー、運輸、並びにデジタル分野の連結を通じて経済発展を促進するための戦略的経路としての役割を果たしていることを証明している。我々は、公的支援や友好関係の発展、ビジネス・パートナーシップ、スマートな成長のための新たな革新的モデルを適用するためにどのような潜在能力を有しているかを良く承知している。今次ビジネスフォーラムは初めて、IMF専務理事、米議会の代表団、及び西欧、太平洋並びに中東の政府及びビジネスの代表者を迎え入れることができた。ギリシャとのエネルギー及び運輸の分野における積極的な協力がなければ南北軸の相乗効果の完全に発揮されないため、ギリシャの参加に謝意を表する」と述べた。

▶バイデン米大統領は、ビデオ・メッセージを通じて、「米国は、3SIに対する強力な支持を表明する。3SI地域の安全及び繁栄、延いては世界にも貢献できるような、加盟国間の協力及び連結性を深めるための素晴らしい潜在能力が同イニシアティブにはある。米国は、あらゆる段階において信頼出来るパートナーとなるであろう。

我々は、統合及び地域の域内連結性の改善を継続するという3SIのコミットメントを共有しており、これにより、3SI諸国は、EUとの結束を高め、自由及び平和という欧州全体の長期に亘る目標を達成することが可能となる。我々は共に、民主主義国家が如何に人々の価値観を先導しつつ人々のニーズに応えることが出来るかを証明し、新型コロナ禍を終結させ、より強靱性及び公平性のある経済を構築し、「Build Back Better World」イニシアティブを始めとする透明性が高い方法で高水準のインフラに投資し、そして、多くの国から成功する機会を奪う汚職を根絶することを期待している。また、3SI諸国は、協力を通じて、主権を強化し、エネルギー安全保障を促進させ、21世紀の経済において同地域の市民が競争し成功する機会を得られるようになるだろう。自分は、共に緊密に協力し、強制や脅し、偽情報、サイバー攻撃に晒されることもない、より安全な世界を築くことを期待している」と述べた。

◆3SI首脳会合におけるブルガリア、ポーランド、ルーマニア及びラトビア大統領の発言

▶9日、ソフィアで開催された第6回3SI首脳会合の開会挨拶において、ラデフ大統領は、「3SIの優先プロジェクトの実施は、地域及び欧州全体の持続可能な開発の状況を劇的に変化させるだろう。2021年に90件ある優先プロジェクトの継続的な発展は、我々の野心の水準を示している。我々は、戦略的パートナーである米国、独及び欧州委員会の支援を高く評価している。企業や個人にとり、政治的指導者や国家機関、開発銀行、商工会議所、業界団体等が一堂に会し、あらゆる重要事項についてオープンに議論していることを確認できるのは非常に好ましいことであり、これは、開発を促進し、運輸、又デジタル及びエネルギーの連結性を改善し、更に3SI地域の戦略的議論を開始するためのアイデアやガイドラインを生み出し続けていることを意味している。ソフィア首脳会合は、3SIが

友好的な関係を発展させ、又、進歩及び価値を生み出す能力を強化する協力の活力を活用するユニークな手段として、非常に上手く機能していることを示す一つの証左である」と述べた。

▶今次首脳会合閉会記者会見において、ラデフ大統領は、「3SIの首脳会合及びビジネスフォーラムの2日間で重要な会議・議論が行われ、重要な合意が為された。3SIに参加した12カ国の大統領及び高官代表者は共同宣言を採択し、同宣言は、運輸、エネルギー並びにデジタルに係るインフラの連結性の改善及び官民パートナーシップ並びに新たな革新的開発モデルの促進により、3SI地域の国々の迅速な発展を目指すという共通の政治的意思の表明である」と述べた。

▶同記者会見において、ヨハニス・ルーマニア大統領は、「3SI首脳会合は、同地域の経済発展を支援する同イニシアティブの協力の重要性が高まっていることを裏付けている。我々には優先順位の高いプロジェクトのリストがあり、又、商工会議所同士の協力が実を結び始めている。議会及び地方レベルでの関係の発展は、政府間の関係を補完することになる。このような努力の最終的な目標は、経済、運輸及びデジタルの連結性における優先プロジェクトの実施である。市民は大きな期待を抱いており、これは次期に亘り適切に満たされなければならない。3SIの重要性は、持続可能な開発、より強力な経済及びインテリジェント且つスマートな成長の見通しを促進するための共同決定を支援する能力にある。当然のことながら、3SI及び同イニシアティブの活動への関心は高まっている」と述べた。

▶同記者会見において、ドゥダ・ポーランド大統領は、「3SIの下での協力及びEUにおける3SI諸国間の関係強化は、国家及び社会に具体的な成果をもたらす。同イニシアティブは、欧州の偉大な経済発展の一部である。3SIの全ての戦略的パートナー及び友人は、明るい展望、及び関係国の繁栄のために関与したい旨の願望を

示した。世界的に見て経済規模の大きいパートナーは、同イニシアティブの可能性を認識している。3SIが辿った道は、エネルギー安全保障等の安全保障の強化を保証した」と述べた。

▶同記者会見において、3SI次期開催国としてのラトビアの優先事項について尋ねられたレヴィッツ・ラトビア大統領は、「自分は、ラデフ大統領と次期3SI首脳会合に向けた次のステップにつき協議した。ソフィア首脳会合での成果は非常に重要であり、将来のリガ・サミットで活用されるだろう。また、焦点は非常に重要な民間投資に向けられることになる。3SIの下での公共投資は非常に重要な手段であるものの、これだけでは十分ではなく、同地域をより多くの投資にとり魅力的なものにすることがラトビア主催の3SIの目標の一つである。但し、単なる投資ではなく、3SIに焦点を当てた具体的なインフラ・プロジェクトへの投資でなければならない。また、今次首脳会合の参加者は、一般市民、特に若者を巻き込む必要性について議論した。地理としての地域は常に存在するものの、人々の心の中にある地域はアイデアであり、3SIに関する同アイデアは、若い人々により発展・拡大される必要がある。3SI加盟国は、同地域に民間投資を呼び込むにはどうすればよいか、3SI投資基金をどのように発展させればよいか、欧州及びEUの中でも特別な地域におけるプロジェクトの実施に一般市民をどのように参加させればよいかを具体的に検討する必要がある。リガでの次回3SIサミットの開催は大きな挑戦であるが、ラトビアは非常に革新的な国であり、経済・技術的イニシアティブを支援するために新たな技術を実装することを楽しみにしている」と述べた。なお、同日、次回3SI首脳会合開催国ラトビアは、ラデフ大統領から3SIを調整する役割を引き継いだ。

ブルガリア内政・外交の動き（7月）

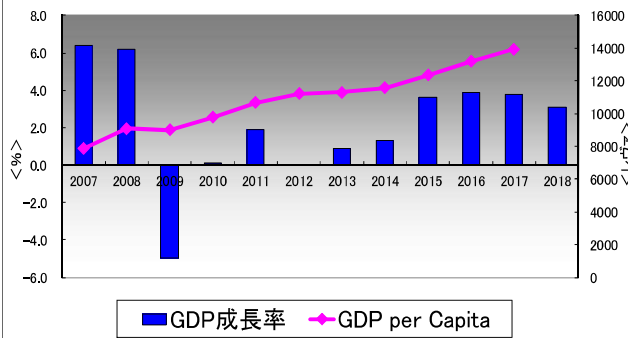
在ブルガリア大使館

1（木）	
2（金）	
3（土）	
4（日）	
5（月）	ヤネフ首相のベルリン・プロセス首脳会合の出席（ビデオ会合）
6（火）	
7（水）	
8（木）	三海域イニシアティブ・ビジネスフォーラムの開催
9（金）	三海域イニシアティブ首脳会合及びビジネスフォーラムの開催
10（土）	
11（日）	解散総選挙の実施
12（月）	
13（火）	
14（水）	
15（木）	
16（金）	
17（土）	
18（日）	
19（月）	
20（火）	
21（水）	第46回国民議会の開会
22（木）	
23（金）	
24（土）	
25（日）	
26（月）	☆ラデフ大統領のオーストリア訪問：フォン・デア・ベレン大統領との会談
27（火）	
28（水）	
29（木）	
30（金）	
31（土）	

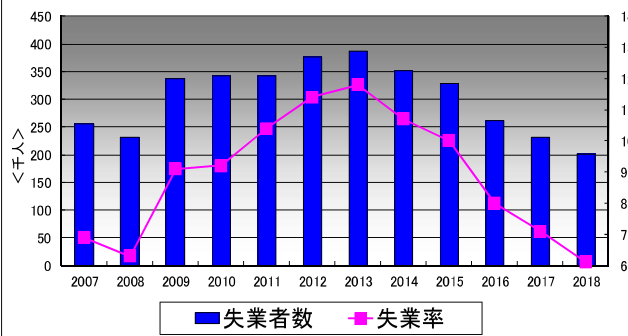
★来訪 ☆往訪

ブルガリア経済指標の推移 (出典：国家統計局、中央銀行、財務省（日本）貿易統計)

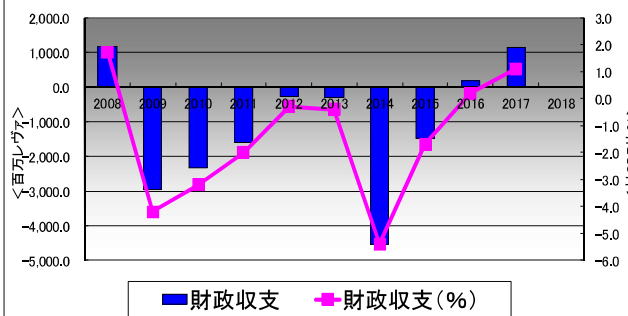
GDP成長率と国民一人当たりGDP



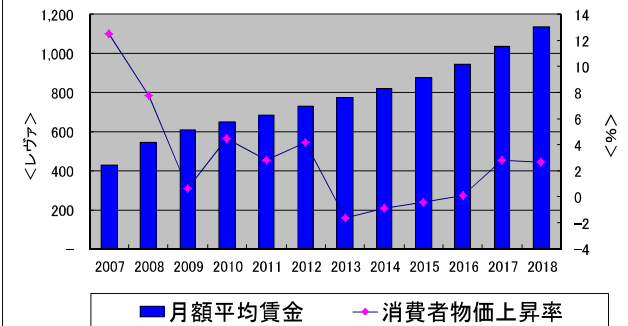
失業者数及び失業率



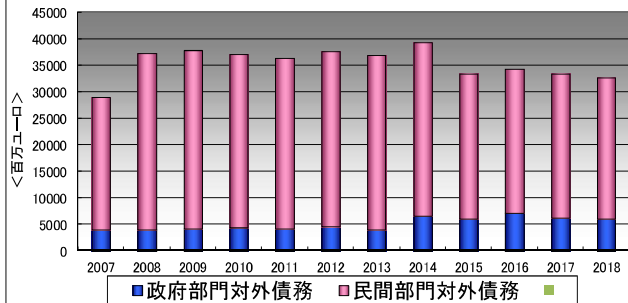
財政収支



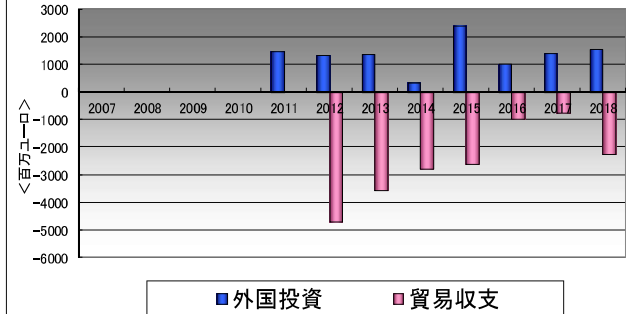
消費者物価上昇率と月額平均賃金



対外債務

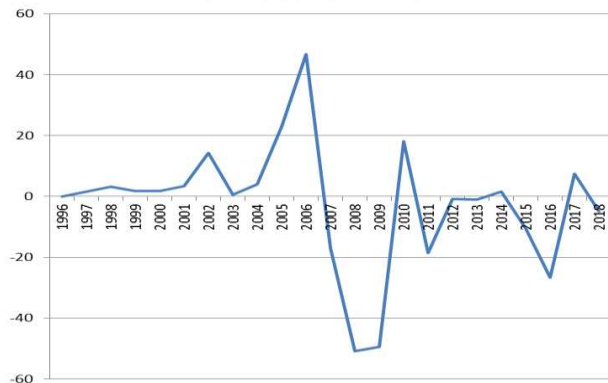


貿易赤字と外国投資



日本の対ブルガリア投資額

(フロー、単位：百万ユーロ)



日本の対ブルガリア貿易の推移

